

2026 年 3 月期第 1 四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2025 年 8 月 1 日 金曜日 18:30～19:30

Q1. 26 年 3 月期通期の事業利益計画について

A1. 期初計画 540 億円の事業利益を達成させる。内部要因としては、加工事業本部における構造改革の効果発現の継続や北米の買収工場の本格稼働に加え、食肉事業本部におけるビジネスモデル変革や豪州牛肉の生産頭数拡大が寄与する見込みである。外部要因として、国産鶏肉・豚肉の市況や豪州牛肉の販売環境も追い風となる見込みである。

Q2. 加工事業本部の今期計画について

A2. 1Q での減益分をカバーするまでには至らず事業利益を 20 億円下方修正した。1Q では新システムの安定稼働に向けた対策費用や北米での鶏肉加工品原料価格の高騰など、一時的なコストの増加が影響した。ただし、国内では構造改革が継続しているとともに、シャウエッセンやチルドピザ等の重点ブランド商品の伸長や単価改善が進んでいる。2Q 以降は回復の遅れている中華名菜等の販売強化や、北米 M&A 工場の稼働を上げることで事業利益を確保する。

Q3. 食肉事業本部の今期計画について

A3. 内部要因に加え、外部環境も寄与したことで 1Q が増益となったことから、事業利益を 20 億円上方修正した。現在、稼ぐ力の強化に向け輸入食肉や国産豚肉のビジネスモデル変革を進めている。フード販売としても物流コストの転嫁を進める中、概ね前年並みの販売数量を確保しているが、国産鶏肉の想定を上回る相場や輸入食肉の戦略的な在庫抑制の影響を受けている。バリューチェーン全体では利益コントロールできており、稼ぐ力が強化されつつあると考えている。国産鶏肉の相場、豪州牛肉の好調な販売環境と外部環境も利益伸長の大きな要因となっている。

Q4. ポールパーク事業の今期計画について

A4. 1Q は球団成績が好調だったこともあり、観客数や広告収入が増加し増益となった。2Q 以降も様々なイベント等で観客動員数の増加を図り更なる収益拡大を目指したい。2028 年の新駅開業までは地道な努力や営業努力により収益力を上げていく。

Q5. 来期の事業利益の見通しについて

A5. 610 億円の達成確度を高める目的で、中期経営計画 2026 の KPI を改定した。加工事業本部においては構造改革に取り組む中で、収益貢献度の高いライン稼働率を高め、収益力を高めていく。食肉事業本部においてはボラティリティ低減と構造改革を併せてやっていく。まずは輸入食肉在庫の安定を図るべく、全畜種を均等に仕入れるのではなくマーケットニーズに合わせた調達を実行していく。またエリア毎の人口動態を踏まえたルート販売戦略でフード販売の営業力をさらに強化する。このような環境に即した KPI を柔軟に追加・修正することで 610 億円の事業利益計画を達成させていきたい。

以上